

# ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

①15

## 神足小学校区の遺跡

市制30周年記念企画のために中断していた長岡京歴史散歩を本号から再開します。再開にあたり、発掘調査の成果や歴史的な事柄などを、10ある小学校区ごとに分けて順次紹介していきます。まずは、神足小学校区から始めることにしましょう。

◆  
神足小学校区は、JR京都線と阪急京都線とに挟まれた市街地の中心ともいべき所で、市役所をはじめ、大小の店舗や工場、住宅などが密集し、神足遺跡、開田遺跡、明星野遺跡などの弥生・古墳時代を中心とする集落跡、塚本古墳や開田古墳群などの古墳、平安時代の離宮跡と考えられている泉殿跡、それに江戸時代の勝龍寺城跡などが所在しています。そうした遺跡のほとんどは、地中深くに埋もれ、直接見ることはできませんが、発掘調査によって当時の姿が次第に甦りつつあります。そして、重なり合うかのようには様々な遺跡が存在していることは、古くから人々が生活するのに適地であったことを私たちに教えてくれます。

一方、今も地上に残るものとして西国街道があります。この街道は、京都の東寺と兵庫県の西宮市とを結ぶ古道で、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に整備したこともあって、「唐道」あるいは「唐海道」とも言われていました。江戸時代の絵図には、街道沿いに民家が描かれ、一里塚という地名も、街道の行程を示す名残と考えられます。また、市役所の南側を東西に走るアゼリア通りは、長岡京の

五条大路とほぼ重なっていることが明らかになっています。五条大路は、路面幅が約24メートルもある立派な道で、アゼリア通りの倍以上、現在の4車線道路に匹敵する大きさです。当時も、多くの人々が往来し、今と変わらぬ大きな賑わいを見せていたことでしょう。このように、私たちが日々ごろ何気なしに通行している道々にも、それぞれ長い歴史の重みがあるといえます。



▶ 五条大路の路面と北側溝